

Robotics Report

新たな常識のはじまり

感染拡大防止に一役買った ロボティクスの技術

nikko am
fund academy



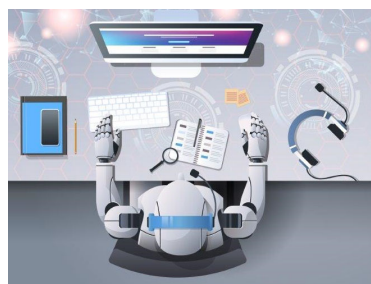
「真の実力は危機に直面した時に初めて試される」といいます。新型コロナウイルスの感染拡大で、世界の経済活動はほぼ機能停止状態にあります。そこで、経済活動の維持なども念頭に活用されたのが、ロボティクスの技術です。今回は中国における感染防止の取り組みを紹介します。

? 世界一人口が多い中国で どのような技術で素早く感染状況を把握したのか

新型コロナウイルスは、感染者との接触や飛沫（くしゃみなど）で感染するといわれます。感染拡大を防ぐには、感染者の隔離と潜在的感染者（接触者）の特定を急ぐ必要があります。

そこで活躍したのが、チャットボットを活用したコールセンターシステムです。このシステムは、潜在的感染者に自動的に電話をかけ、自然な会話で対象者の状況を確認し、自動集計します。

チャットボットとは、chat：おしゃべりする、robot：ロボットを組み合わせた造語で、AI（人工知能）を活用した自動会話プログラムのことをいいます。通常、200人の対象者を把握するのに、人が作業すれば5-7時間かかるところを、5分程度で実現できるとされ、感染状況の早期把握が可能になりました。



※イメージです。

さらに、感染者が接触した可能性のある接触者の特定を可能とするビッグデータ技術の活用で、自分の行動を入力すれば、感染者（含む疑い）が近くにいたかどうかを確認できるアプリもあります。

? 公共交通機関で感染防止のために導入された顔認証技術とは

中国では、感染拡大防止のため、公共交通機関などで体温測定を実施しています。主に携帯式測定器などを利用しているようですが、一部ではAI体温測定システムを導入して効率化を図っています。



※イメージです。

このシステムは、従来の赤外線センシング技術に顔認識技術などを組み合わせたもので、顔認証を手掛けるメグビーが開発しました。

1秒間に約15人の検温が可能でマスクや帽子で顔が隠れていても、多少離れていても、人混みの中から高体温の人を識別できることから、地下鉄や空港などの混雑する場所で利用されているようです。

また、システム1台に必要なスタッフは1名でよいので、感染リスクも抑えられます。

このように、新型コロナウイルスの感染状況の早期把握や、感染拡大防止のために、随所でロボティクス技術が活用されました。そして、人の仕事の一部をロボティクスが代替することで、人が取り扱う情報量と作業の質を向上させることができたのです。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。